

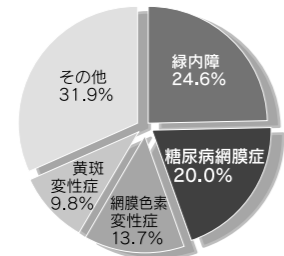
糖尿病網膜症 定期検査で一生良い視力を

*どんな病気

糖尿病網膜症は、腎症・神経症とともに糖尿病の3大合併症の一つです。緑内障とともに視覚障害の二大原因です。(図1)

この病気の怖さは、自覚症状が無いまま進むことです。糖尿病のコントロールが不十分な場合、数年から10年位で糖尿病網膜症が出ます。初期には無症状ですが、ある日突然、「目の中に墨が広がってきて見えなくなった」などの症状が出る頃には、網膜症はかなり進んでいます。

図1:視覚障害の原因(割合)



出典:厚生労働省(平成17年度)

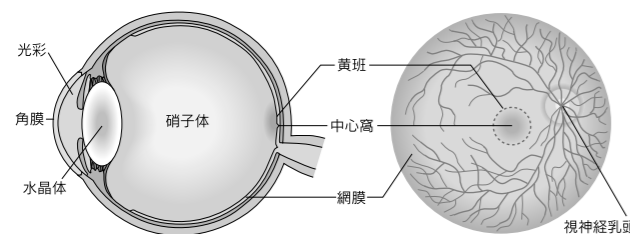
*進行過程 (図2)

糖尿病網膜症は、進行の程度により大きく3段階に分類されます。

(1) 初期 (単純糖尿病網膜症)

網膜の血管が高血糖によりもろくなり、小さな点状

図2:正常な眼球断面と眼底

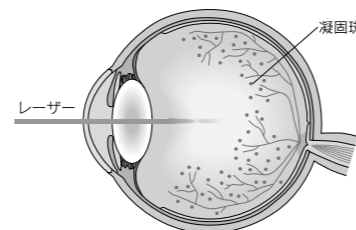


の出血、血液中のタンパク質や脂肪が染み出してできたシミ(白斑)、細小血管のコブ(毛細血管瘤)等がみられるようになります。この時期に自覚症状はありませんが、網膜症は既に始まっています。通常、血糖コントロールを良くすると改善に向かいます。

(2) 中期 (前増殖糖尿病網膜症)

広い範囲で細い網膜血管が詰まると、その先の網膜は血液が足りない状態(虚血)となります。血流不足により足りなくなった酸素を供給するために新しい血管(新生血管)が伸び始める前段階です。この時期になると、かすみなどの症状を自覚することが多いのですが、全く無症状のこともあります。治療は、虚血になっている網膜にレーザー光を照射する網膜光凝固術(図3)を行い、新生血管が伸びてくるのを防ぎます。これが、進行予防にとって重要です。

図3:レーザー光凝固術



(3) 後期 (増殖糖尿病網膜症)

新生血管が網膜から硝子体に向かって伸び、網膜を引きはがす膜を作ります。新生血管は非常にもろいため簡単に破れ、硝子体内に出血し、更に進行して網膜剥離を来すこともあります。この段階の治療には、出血を取り除き、剥離した網膜を治療する硝子体手術を必要とすることが多くなります。この段階から治療し

ても、日常生活に必要な視力の回復が得られないこともあります。

(4) 糖尿病黄斑症

(1)~(3)の進行と前後して、網膜の中心にある黄斑が傷んで視力の低下が起こる糖尿病黄斑症を併発することがあります。

黄斑は、網膜の中心にあり、ものを見るために最も重要な部分です(図2)。黄斑付近に毛細血管瘤が多発したり血液成分が染み出たりして、黄斑にむくみを生じた状態が糖尿病黄斑症です。初期の単純糖尿病網膜症の段階でも起こることがあり視力が低下してしまいます。近年では、黄斑部のむくみを改善する薬剤を眼内に注入するなど様々な治療がなされていますが、黄斑部の網膜が一度強く障害されてしまうとむくみが引いても視力がおもうように改善しないこともしばしばです。

*検査 (図4、5)

診断に有効なのが、眼底検査です。これにより、網膜血管の微細な異常や、出血、白斑等を見つけることができます。更に蛍光眼底

造影という網膜の毛細血管の鮮明な画像が得られる検査をすることもあります。また、硝子体出血で眼底が見えない場合は、超音波検査を行って網膜剥離の有無を確認することがあります。

*網膜症で失明しないために

健診などで高血糖を指摘されたら早めに内科受診し、糖尿病の検査を受けましょう。その結果、糖尿病と診断されたら、内科の治療を行うと共に必ず眼科で検査を受けて下さい。自覚症状では眼の状態はわかりません。視力1.0でも、かなり網膜症が進んでいる場合があります。

そして、定期的に眼科検査を行うことにより、適切な時期に適切な治療を受けることができます。

「何年も前から、糖尿病疑いといわれているが、症状が無いので放ってある」という人にとっては、血糖のコントロールをして糖尿病網膜症を防止するために、今が受診のチャンスです。血糖コントロールが治療の基本ですから、眼科医と内科医が連携して治療に取り組みます。この連携に役立つのが「糖尿病眼手帳」です。検査結果や治療内容を記載でき、患者さんご自身のメモとしてだけでなく、医師同士の連絡にも役立ちますので、通院の際には、是非携帯して下さい。

放置すると怖い糖尿病網膜症ですが、定期的に検査をすることにより、重い視力障害や失明を防ぐことができます。糖尿病のある方は、自覚症状が無くとも眼科受診を忘れないで下さい。

図4:正常な蛍光眼底

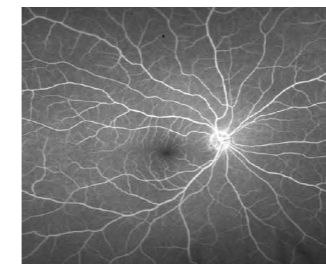
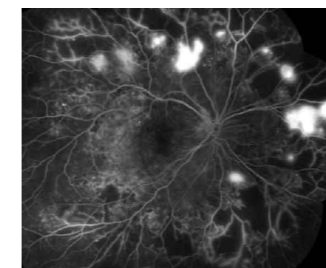


図5:増殖糖尿病網膜症の蛍光眼底



今日10月10日は目の愛護デー

富山県眼科医会

ご不明な点はかかりつけの、もしくはお近くの眼科医にご相談ください。